

附属久里浜特別支援学校のオリンピック教育の取り組み

附属久里浜特別支援学校 河場 哲史

本校は知的障害を伴う自閉症の子どもたちを対象とした学校であり、幼稚部と小学部だけの学校である。このような学校の実態から、本校ではオリンピック教育の目的を次のように位置づけている。

- ・健康の保持増進のために、体を動かすことに関心をもつこと
- ・身近なスポーツを通して手足の巧緻性や操作性を高めること
- ・競技のルールを理解し、他者と一緒に楽しめること

具体的には、日々の運動活動や学校行事、地域の体育大会の参加などに、オリンピックを関連付けながら指導に当たることで、少しでもオリンピックを身近に感じたり、幼児児童の運動へのモチベーションを高めたりできるように配慮をしている。子供たちは、今までの学習の積み上げから、運動すること自体の楽しさを味わったり、努力を続けることの喜びを知ったりなど、意識が年々変化してきているように思われる。今年度の実践を次に紹介する。

<神奈川県特別支援学校体育連盟主催の陸上夏季記録会への参加>

小学部児童9名が記録会に参加した。記録会本番に向けて3回の練習を、本校グラウンドで行った。初めはなかなかゴールテープまで走り続けることが難しい児童もいたが、練習を重ねるにつれてスピードを落とさずに走り続けることが徐々にできてきた。

記録会当日は、それぞれの児童が練習の成果を思う存分発揮し、納得のいく走りができた。最後まで走り終えた時の満足そうな表情が大変印象的であった。

<神奈川県特別支援学校体育連盟主催の駅伝・ランニング大会への参加>

小学部児童5名が大会に参加した。大会本番に向けて2回の練習を行った。限られた時間ではあったが、実際に走る距離を体感したり、昨年度の写真などを参考に大会のイメージを持ったりした。

大会本番では、小6児童がという結果を修めることができた。結果に対する満足感を得ることはもちろん、来年に向けての目標を新たに設定することができた。また、今までは高学年の参加が主であったが、今年度は小学部1年生の参加も有り、裾野の広がりも実感している。

本校のオリンピック教育は、まだまだ試行錯誤の段階で、毎年見直しをしながら行っている。日々の教育活動にオリンピック教育の味付けを行うことで、より意欲的に活動できるようにしていきたいと考えている。幼児児童の実態を考慮しながら、今後も運動習慣を継続させることで、余暇の充実拡大にもつなげていきたい。



